

二組に分かれつつある - 定期刊行物価格調査 2005

(Van Orsdel, Lee C.; Born, Kathleen)

Choosing Sides – Periodicals Price Survey 2005. Library Journal 4/15/2005

<http://www.libraryjournal.com/index.asp?layout=articlePrint&articleID=CA516819>

オープンアクセスを巡る世界的な戦いがあり、そのジレンマに対する即座の回答はない。この論争の中で図書館員はどこにいるのか？

昨年、出版社の取引に二の足を踏む研究図書館、科学出版システムを調査する政府、著者支払ビジネスモデルを売り込んでいる改革者が見出しになったニュースで爆発した学術コミュニケーション市場は、不安的であるが比較的落ち着いた状況になった。販売員の連合体は巨大な STM (科学、技術、医学) 出版社の雑誌コンテンツの一括販売の押しつけを続け、予算が欠乏している図書館は、買う余裕のない雑誌の削減を続けている。しかしながら、表面下では変化の潮は激しく流れている。

一つの指標は、進行中の「雑誌の危機」の本質についてのコンセンサスの増大が意味する鋭いレトリックである。今や、図書館員は、親機関からの新しい資金の投入が問題を解決すると主張している人に、誰彼構わずすぐに異議を申し立てている。高等教育それ自身が財政危機にあり、図書館資料予算を救済する立場にない。その危機は、雑誌タイトルのずっと低い年間インフレ率によっても解決されないだろう。数十年間、特に科学雑誌の基本料金が、学術コミュニケーション・システム全体がだんだん持続できないような塊になったにも関わらず、我々の関心は年間の価格上昇にあった。

STM 雑誌の危機が、図書出版社を含む学術出版市場の他のセグメントを弱体化させている証拠が上がったので、変革が必要でかつ速やかに生じなければならないことを誰もが事実上認めている。もっといえば、我々の「雑誌の危機」は、一部の人々が公共政策の危機と呼ぶものに変形し、全体として社会のために科学情報に対するより開かれたまた手頃な値段のアクセスの追求のため、患者活動家団体、納税者、研究者、助成機関、立法者及び反トラスト弁護士が全学術図書館員と思ってもよらないような同盟を結ぶようになりつつある。これらの同盟は、学術出版社を排除しない。それらの多くは、開かれたアクセスの利益を歓迎している。反対意見が揺らぎもしない出版社であっても、オープンアクセス (OA) 運動が市場を推し進めていることに同意すべきであろう。しかし、その方法や範囲については意見がほとんど一致しない。

このジレンマに対する即座の回答はない。雑誌価格は下降していないし、図書館予算は上昇していない。出版費用が先払いされ、購読者が無料でアクセスできる OA ビジネスモデルは、経営基盤の確立した非常に多数の出版社を引き込むには、余りにも斬新であり過ぎた。著者に公的資金助成を受けた研究知見をウェブにアーカイブするように強制する立法の発議 (legislative Initiatives) は、差し当たり米国及び英国では立ち往生した。しかしながら、ウェルカム財団 (Wellcome Trust) のような主要な民間の研究財団は、その資金援助の成果である研究論文をウェブで保管することを義務付け始めた。Google Scholar の出現は、学者によるオープンアクセス・リポジトリ運動への協力を活性化するかもしれないが、それはこの時点では推測である。図書館員は利用データを調査し、利用と価格を関連づけ、必須でないあらゆる雑誌を削減するので、一方では、出版社は苦闘している市場で収益を維持する方途を探そうとして非常に複雑な価格モデル[の作成]に骨を折っている。

本年の定期刊行物価格調査は、逐次刊行物市場を再形成するこれらとそれ以外の要素を考察する。本調査では、Institute of Scientific Information (ISI) の 3 つデータベースである Arts and Humanities Citation Index, Social Science Citation Index 及び Social Science Citation Index が提供する 4,893 タイトルを使用する。これらのデータベースは、大規模研究図書館の雑誌の所蔵を良く表している。もっと小規模な大学図書館向けには、EBSCO Publishing の Academic Search Premier の 2,759 タイトルの収録雑誌の分析を含んでいる。

本調査用の価格の変遷は、280,000 タイトルの逐次刊行物を収録する EBSCO データベースから得た。実務上の理由から、ヴェンダー経由で注文可能な、価格が事前設定されているタイトル (継続発注タイトル (standing-order titles) や後で請求書により価格がわかるタイトル (bill-later titles) とは逆のもの) に限定した。データは 2005 年 2 月 11 日現在である。

2005 年の価格工学 (price engineering)

改革の戦略が離れたところ (distant venues) で議論されているにも関わらず、出版社やヴェンダーや図書館は、あらゆる価格設定や実務の標準化を拒んでいる変化しつつある市場に対する欲求不満と取り組んでいる。購読機関を種類及び規模によって価格マトリックスに当てはめる階層価格設定 (tiered pricing) は、Project MUSE, BMJ (British Medical Journal) 及び多数の学会出版で採用されている。ある出版社は、利用実績に基く価格設定体系を試みつつある。それは、コンテンツの塊の見積原価で開始され、長年にわたる利用に基いて将来の価格を修正する。Science は、この方式を大手の顧客に使用している。

あまり透明性がないのは、Wolters Kluwer Health や Nature Group や他の多く

の出版社が支持している，腹立たしいほどあいまいな「見積価格（quoted pricing）」である。顧客に合わせた価格設定への動きは，顧客に合わせた雑誌のセット販売の動きを反映している。1 館あるいは 1 コンソーシアムのいずれが交渉しようとも，これらの複雑な価格体系は，単純な電子ジャーナルの発注を一見したところ完全な交渉に変え，多くの場合，更新処理を何週間あるいは何ヶ月も長引かせ，更新時期を冬の期間に引き延ばしている。

馬鹿げているもの，それは価格だ（It's the cost, stupid）

ある分野における定期刊行物の常軌を逸した価格の時代にも関わらず，この問題の範囲についてのデータは増加し，衝撃を与え続けている。Oxford University Press (OUP) が委任し，ある英国の大学が実施した『学術雑誌価格：主要な傾向及び価格 (Scholarly Journal Prices: Selected Trends and Prices)』は，12 の著名な学術出版社の価格設定行動の間に甚だしい相違があることを証明している（<http://www.lboro.ac.uk/departments/dis/lisu>）。本報告は，5 年間の価格設定データを出版社ごとにそして 6 の広い主題領域を横断・比較して提供する。

いくつかの興味深い類似事実：Elsevier は，雑誌の完全なポートフォリオによれば，全体に価格の中間値が最も高い。Cambridge University Press は，最も [価格] が低い。Elsevier は，また各 6 主題分野において価格の中間値が最も高いが，Kluwer 及び Sage は，社会科学及び人文科学において Elsevier の中間値に近づいている。Sage は，2000 年から 2004 年にかけての全体の価格上昇率が最も高くなるという怪しげな卓越性を獲得した（94%）。生物医学の雑誌における網羅的な価格・価値分析を調査している図書館員は，本報告書にデータの宝庫を見いだすだろう。

まあ，それはまたインパクトだ（Well, it's also impact）

インパクト・ファクターは，当該分野における研究者による論文の引用回数に基く，特定雑誌の品質の共通尺度である。雑誌のインパクト・ファクターが高くなるとその雑誌の品質が高くなり，出版社がその雑誌の講読価格をもっと上げることができるという暗黙の了解がある。OUP の調査は，生物医学雑誌についてその相関を調査し，それを見つけることができなかった。すなわち，最も高額なタイトルは，最も高いインパクト・ファクターを必ずしも生じるわけではない。本調査は，ページ数と価格の間にずっと強い相関があることを発見した。これらのような種類のデータは，現在の逐次刊行物市場にとって基本的なツールである。もっとツールが必要だ。インパクト[・ファクター]と利用データは，図書館員が雑誌購読の価値を認識する方法を変革しつつあり，彼らは更新リストを投票で決めつつある。

米国における印刷版の放棄 (Ditching print in America)

雑誌の購読中止，とりわけ印刷版の重複の購読中止は，米国の図書館で蔓延している。2004年の春にある出版社のコミュニケーション・グループが行った調査では，回答者の84%が電子版の利用ができる場合，印刷版を中止すると述べた報告している。理屈の上では，印刷版の購読中止は，広告収入が影響を被らない限り，出版社の純利益 (bottom line) を促進すべきである。電子ジャーナルの購読中止について同じことはいえない。分散仮想図書館の原型であるOhioLINKが2005年及び2006年に電子雑誌を削減するだろうとこの2月に発表したときには，出版社は縮み上がらなければならなかった。米国の経験とは幾分逆に，世界のその他の国の多くでは，印刷版を購読し続けている。ヨーロッパの図書館は，課税上，オンライン版ではなく，印刷体を保護している付加価値税 (VAT) の構造の変則性のため，印刷版を好んでいる。

本日のスキャンダル (Scandal du jour)

Emerald Publishing は，本年の最も言語道断な倫理違反賞を受けた。以前はMCB University Pressとして知られていたこの出版社は，ほぼ30年にわたり，重複掲載があるという通知なしに論文の再出版を言い続けていた。それらは，最近の計算によると73の雑誌に560の重複論文があった。この重複を[初めて]発見したコーネル大学のPhilip Davisは，論文がときどき同一学問分野の雑誌に同時に出版されることを見つけた。これらの雑誌の多くは，多額の値札 (hefty price tags) をつけている。

Davisが指摘したように，この慣行は，重複を知らないで購入している図書館やその会社と利害関係を持つ編集者によって妥協して行われているかもしれない査読プロセスに重大な疑問を提起している。これがありがたくない例外なのかそれとも単にスキャンダルの最初の問題なのかどうかを見極めるのに関心があるだろうが，どちらにせよ，商業出版社のセクターは良くないのだ。

議会の気骨 (Parliamentary backbone)

オープンアクセスの支持者は，11月に挫折を経験した。それは，英国政府によって議会の委員会が英国にOA運動のリーダーとしての役割を果たさせようとした勧告の実行が否決されたときであった。委員会は，オープンアクセスの原則を承認し，科学情報を公衆の手に渡す戦略を提案した。英国の様々なグループが，勧告の一部を実装しようとして作業しているが，政府は，本報告が提起した中核の問題に対して言葉を濁し続けている。どうやら政府は豊かなSTM出版社の転覆を選ばなかったようだ。最大規模のそれらのいくつかは，英国に本社がある。

米国で激しく当る (Playing U.S. hardball)

米国でも同様の後退を経験した。昨年の夏, [米国]議会は, 国立衛生研究所 (NIH: National Institute of Health) に対して, その資金助成を受けた研究の知見を論文の出版から 6 ヶ月以内に PubMed Central(NIH のオープンアーカイブ) に掲載するための指令を開発するように要求した。提案された方針に対する賛成反対のいずれも[のグループ]が強力な連合を形成し, 意見の[応酬]が秋まで続いた。[2005 年]2 月に発表された手加減した提案では, 資金助成を受けた者が論文を保管する指令が取り除かれ, いくつかの例外を除き, 保管される論文の禁止期間(embargo period)が 12 ヶ月に延ばされた。またしても商業出版社が, 提案をビジネスの障害とみなしている学会出版社の中核の主張 (a vocal core) による強力な応援を受け, 勝利を収めたように思われた。新たな NIH の方針は, ないよりはましだが, 一方 12 ヶ月の掲載禁止がそのうちに事実上の基準となり, 科学情報のタイムリーな交換をいたずらに硬直化するという恐れがある。

OA : 注目するヨーロッパ (OA: Europe to take a look)

一方, 欧州委員会 (EC) は, 科学雑誌出版の調査を開始した。それは, アクセスと出版社の経済的利益についての利害関係を調整しようとするものである。報告の発表の時点で, EC は, ヨーロッパが米国を科学出版物の生産の面で 10% 上回っているが, ヨーロッパの著者の出版物は, 米国よりも引用がずっと少ないと指摘した。EC はアクセスとインパクト・ファクターの間に関連 (link) がありうると見なし, 変化の根源が市場自体にあることを明確に認識している。報告の締切りは年内である。興味深いことに, 英国公正取引委員会 (British Office of Fair Trading) は, 2 年前に「うまく機能していない」と発言した市場の最前の監視方法を決定するために EU の報告書を待っていると述べた。

噂を信じてはいけない (Don't believe the rumors)

それとは反対の噂にも関わらず, OA 運動は依然として変革の強力な触媒である。Directory of Open Access Journals の収録雑誌数は, [2005 年]2 月で 1,463 に達し, 1 年前の 2 倍となった。そこには, 生物学 (61), 化学 (40), 一般医学 (164), 神経学 (31), 公衆衛生 (58), 地学 (22), 哲学・宗教 (48), 教育 (110) 及びコンピュータ科学 (45) のような分野で多数の査読誌がある。ISI の調査は, 対象としたオープンアクセス雑誌のインパクト・ファクターが高いことを捕捉しており, 非常に定評のある伝統的な雑誌と比べた場合でも同様であることを発見した。他の OA 対有料アクセス論文の調査が明確にしたように, OA 文献は料金で保護された文献 (toll-protected) を, 引用とダウンロードの両面で凌駕するような気配がある。

商業出版社が実験を行おうとする兆しがある。OUP は、一流雑誌である Nucleic Acids Research をオープンアクセスのビジネスモデルに切り替えた。多数の複合型の OA 実験が進行中である。それは、著者に論文を無料でウェブに公開する時期とその方法の選択権を与えるものであり、通常は著者の前払いの意志に必ずしも基づくものではない。Blackwell の Online Open サービスと Springer の Open Choice プログラムはその 2 つの早い事例である。

Cell Press は別の種類の複合型の代表である。2005 年 1 月から、それは、12 ヶ月以上経過した電子ジャーナルのコンテンツへの無料アクセスの提供を開始した。HighWire Press やそれ以外の出版社は、これをずっと長期にわたって行ってきたが、Elsevier の雑誌が Cell Press のお墨付きと共にそうしたのは初めてである。このような企ては、完全なオープンアクセスの創刊雑誌に著者をとられまいとする従来の出版社による著者の困り込みを意図しているように思われる。

ポストするのかもしれないのか (To post or not to post)

英国及び米国の提案が出版社から集中砲火を浴びた理由の一つは、著者が論文を出版後に主題リポジトリ (disciplinary repositories) にポストすることが認められた (あるいは、悪くとも要求された) 場合、収入が減る危惧である。90% を越える出版社が、現在、著者がホームページや機関リポジトリに論文をポストすることを認めている。著者がこれらの権利を上手に利用した場合、理屈の上では、科学研究論文の大半は、ある出版社から押しつけられた最小限の禁止期間を伴うにせよ、世界中のあらゆる人が無料で利用できることになる。著者はそうすることに躊躇しないので、出版社はリスクが最小限になるように熟考する。NIH の PubMed Central のような主題リポジトリは、より大きな脅威であると思われるかもしれない。というのは、それらは研究者間の直接でタイムリーな[論文の]交換を奨励するからである。しかしながら、物理学では、arXiv が長年にわたりきわめて人気のあるリポジトリであり、出版社は、一つのオープンアクセス・レポジトリとうまく共存し、プレプリント及びポストプリントによって[雑誌の定期]購読の減少が生じたという報告はなかった。

しかしながら、他の分野の出版社は、情報がウェブ上に無料で公開された場合、売り上げが安定したままか、あるいは大きくなるという考え方を受け入れなかった。たとえば、Nature は、NIH の提案によって動揺を来しつつあるようだ。Nature は、NIH の通知予定日の 1 日前に、望むときに自己アーカイビングできる自由な方針を長いこと享受していた著者に対して 6 ヶ月の禁止期間を押しつけた。Google の学術コミュニケーションへの参入によって存在がもっと明らかになり、利用と出版社の収入が向上した場合、これらの議論はいくぶん非現実的なものになるかもしれない。

Google 現象 (The Google phenomenon)

現在，ベータ版をテストしている Google Scholar は，査読雑誌の中に公式の出版物として掲載される以前あるいは以後に論文がポストされるリポジトリまたはウェブページをローリング（ロボットで順次検索）し，それにより新しい読者（new audiences）へ学術コンテンツを提供すること目的としている。研究者は，学術生産物をウェブに自己アーカイビングするという考え方をなかなか受け入れないかもしれないが，Google は世界中の読者にその成功が証明されているので協力を誘発するかもしれない。

既に STM 出版社の大多数は，Google 及び第三者ウェブサービスによるクロージングに対してメタデータを公開している。というのは，それらのサービスはコンテンツの公開を促進する価値があると STM 出版社が認めているからだ。STM 出版社が設立し，所有している定評のあるリンクング・サービスである CrossRef Search と Google は既に提携している。今月（4月）初めから，Google Scholar は，論文の複数バージョンが出現した場合は，常に出版社の公式リンクを最上位に置くだらう。出版社は，既に，図書館が資金を提供しているデータベース経由というよりむしろウェブから直接要求されたペーパービューによる新たな収入を経験している。どこにでもあるブラウザの存在が，今に至るまで伝統的に保守的な慣習を持ち，かなり閉鎖的な関係にある学者と出版社にどのような影響を与えるかを予想するのは興味深いことだらう。

2006 年の予算 (Budgeting for 2006)

図書館は，この 10 年の企業統合の結果である，少数の出版社が支配する市場の中で学術雑誌を購入している。STM 出版社は，顧客と同様に世界中に散らばっており，図書館予算に打撃を与えがちな通貨の変動に対して当然のことながら保険をかけている。例えば，1 年の大半にわたってポンドとユーロに対して弱かったアメリカドルについては，ヨーロッパの雑誌の価格上昇は，予想していたよりも低かった。出版社は，通貨というよりもむしろ購読中止に関心を持ちつつけているかもしれない。また，米国の出版社は 2005 年の価格を設定する際に自制しているように見えた。我々は，全体としての値上がり傾向が，過去の 9% から 11% というよりは 7% から 9% の範囲になると予想するかもしれない。一方，ドルが弱体化し続ける場合，2006 年の価格はより高い値上がり幅に跳ね返るべし。